

るスタンプラリー事業の、みとペタとの共催で、ワンコイン商店街が実施されています。今年度は70を超える店舗に御参加をいただいたところでもございまして、まちなかの回遊が図れるなど、大きな効果があったものと考えています。また、フェスティバルの開催により、中心市街地の各店舗の売上向上につながったとの評価もいただいているところでもございます。その効果を波及させ、さらに高めていくためにも、商店街を初め、学生の皆様にもアイデアを出していただき、来場者が中心市街地の新たな魅力を発見し、そして、今度はリピーターとしてまちを訪れていただけるような仕掛けを展開しながら、地域経済の活性化を図るとともに、フェスティバルを発展させてまいりたいと考えています。

次に、高校生のまちづくりへの参加の誘導についての御質問でございます。

私は、多くの高校生たちに、まちづくりに参加していただくためには、まず、まちに興味や関心を持ってもらうことが必要であると考えています。

情報誌やSNS、スマートフォンアプリなど、さまざまな媒体を活用して、水戸の魅力に関する情報発信を行っているところでもございまして、学生を初めとする多くの皆様に、まちに関心を持っていただけるよう、より一層、中心市街地の魅力発信の充実に努めてまいります。そして、まちづくりへの積極的な参加に向けては、学生の皆様が、普段から中心市街地とのかかわりを持つことが大切であると考えています。

既に、まちなかの環境美化活動や地域コミュニティ活動など、まちを支える地道な活動に、学生の皆様にも加わっていただいて、参加をいただいております。先月の水戸黄門漫遊マラソンにも、多数の高校生の皆様方にボランティアとして参加していただきました。

私は、こうした活動から、さらにまちづくりに興味を持ち、参加していただくためにも、高校生や若い世代の持つ感性や専門性を、魅力ある個店づくりやアートを活用したまちづくりに生かせるような取り組みなども進めてまいりたいと考えています。さらには、学生の皆様の初めとした多くの方が参加しやすく、まちづくりの楽しさを体験していただけるような取り組みや、主体的な活動へとつながる取り組みについて、今後とも、商店街を初め、民間事業者等とも連携し、検討を進めてまいりたいと考えています。

私は、これらの取り組みを通し、まちづくりへの楽しみをもって参加する意識を高めていただきながら、市民との協働による中心市街地の再生を目指していきたくと考えております。

以上です。

○議長（村田進洋君） 5番、大槻奈菜君、再質問しますか。いいですよ、どうぞ。せっかくだからです。

〔5番 大槻奈菜君登壇〕

○5番（大槻奈菜君） 御回答ありがとうございます。

ぜひ拠点の確保をしていただけると、今日のことが意味のあることとして後輩に伝えられます。ですので、検討のほう、よろしく願いいたします。

○議長（村田進洋君） 要望ですね、要望、はい。

6番、渡辺莉奈君。

〔6番 渡辺莉奈君登壇〕

○6番（渡辺莉奈君） 茨城大学の渡辺莉奈でございます。水戸市女性議会2016に当たり、茨城大学人文学部馬渡ゼミナールを代表して、通告に従い、質問いたします。

私は、大学で廃校利活用における合意形成プロセスについて研究しており、事業の成功には、初期段階で市民のニーズを適切な方法により把握し、行政が積極的にニーズに合った情報を発信していくことが必要であると感じています。市民のニーズを集めるためには、主体的な市民参加が求められます。そこで、政策形成過程における市民参加のあり方とその手法について、2点質問いたします。

1点目は、市民の利益を考慮した、政策形成過程に対する市民参画の推進についてお伺いします。

水戸市第6次総合計画「みと魁プラン」でも挙げられていますように、水戸市では、市民と行政との協働による自主・自立した「みと」づくりを目指していることと思われます。基本計画・各論を参照いたしますと、市民と行政がともに地域の課題等について考える機会として、市民懇談会や行政懇談会等を開催する、市民の意見が政策形成過程においても反映されるよう、審議会への委員の公募制や意見公募手続等を進めてきたことがうかがえます。

ところが、行政への住民意向が反映されていると感じる市民の割合は、2012年度で6.7%と決して高い数字ではありません。行政側が市民参加の機会を設けても、市民の参加する割合は少なく、意見が反映されていない可能性がありますので、情報提供と広聴機会の充実への対策が必要と思われます。また、市民懇談会に参加する年齢層に偏りがあると、偏りがある年齢層の利益に特化した政策となってしまう。

私は、もっと若者が市政に参加できればよいと思っております。未来を担う若者に関しましては、自主・自立する「みと」への市民参画にかかわることによる利益を示し、積極的にかかわってもらうことで、自分たちの住みよいまちをつくりだし、市の発展にも貢献する可能性があります。開かれた市政運営のためには、市民が政策形成過程に参加することによる利益が、負担を上回らなければなりません。

政策形成段階において、年齢層の偏りなく市政に参加していただくための工夫、参加する市民に対しての利益を考慮した市民参画における市の考えや、既に実施されている取り組みなどありましたらお伺いしたく思います。

2点目は、市民参加度チェックマニュアル及び参加候補者の無作為抽出の導入の提案です。

市民参加にはさまざまな手段があり、市が求めている市民の役割を果たすことができるような適切な手法を選ぶことが求められます。

北海道恵庭市では、施策や事務事業の性格、内容ごとに、市民参加の必要性の分類、市民参加が必要な場合にはどのような手段を用いるかといったことについてガイドラインを示し、適切な市民サービスの提供につなげることを目的とする市民参加度チェックマニュアルを作成しています。計画策定事業、ソフト事業、ハード事業といった大まかな分類を行い、さらに、市民と市との協働の度合い、必要性や、地方自治体としての裁量の余地の有無などに応じて細分類することで、事業の事前評価に足る市民意見の把握方法を選択することを可能としています。

こうしたガイドラインを水戸市でも取り入れることで、適切な市民参加が促され、行政への住民意向の反映に効果があることを期待します。その上、住民が直接的に計画策定に参加することも重要です。

千葉県船橋市の船橋市新基本計画策定のための船橋市市民会議の事例では、無作為に抽出された6,000人に募集案内を送付し、応募のあった市民176名から抽選により30名を抽出、参加者には報酬を支払っています。じっくりアイデアを練る作業には向いていませんが、みずから機会を探して応募する

ほどには市民参加に積極的ではない人も、市側から候補者として指名で参加要請を受ければ協力する可能性がありますので、市民参加の視野の拡大につながると思われます。

これらの市民参加度チェックマニュアルや、無作為抽出による直接型住民参加という手法を、市民参加を促すための計画形成段階で取り入れることについて、水戸市はどうお考えになっているのかお伺いしたいです。

御答弁のほど、よろしくお願いたします。

○議長（村田進洋君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

市長，高橋靖君。

〔市長 高橋靖君登壇〕

○市長（高橋靖君） 茨城大学人文学部馬渡ゼミナールを代表されましての渡辺議員の御質問にお答えをいたします。

初めに、政策形成過程における市民参画についてでございますが、私は、市民の視点からのまちづくりを基本姿勢として行政運営に取り組んでおります。市民の方々の声をしっかりと受け止めていきたいとの強い思いから、その機会の拡充を図ってまいりました。そして、さまざまな市民参加手法を展開しながら、水戸市のまちづくりのビジョンとして、市民の皆様とともに、水戸市第6次総合計画、いわゆる、みと魁プランを策定いたしました。

計画策定に当たり実施いたしました、未来の水戸をつくる市民1万人アンケートにつきましては、市内に居住する18歳以上の方の中から無作為に抽出した約1万人を対象として、生活環境や市政に対する御意見、御要望の把握に努めたきたところでございます。

また、茨城大学と常磐大学に御協力をいただき、茨城大学では、みと・未来・ラウンドといたしまして、観光・交流、交通・生活というテーマについて、学生の自由な発想から御提言をいただくとともに、意見交換を実施いたしました。常磐大学では、市の重要課題からテーマを選び、学生の視点からまちづくりの施策を検討し、プレゼンテーションを行うなど、若い世代の考える水戸市のまちづくりを提案してもらい取り組みも実施いたしました。

さらには、魁のまちづくり地域懇談会を市内各所で5回開催し、私みずから、直接、市民の皆様から地域で抱えている課題等をうかがったほか、意見公募手続、いわゆるパブリックコメントを策定段階に応じて3回行うとともに、インターネットモニター制度を活用したまちづくり提案事業についても2回実施したところでございまして、さまざまな世代から、御意見や御要望をいただき、計画への反映に取り組んでまいりました。

各分野における基本計画の策定や施策立案に当たりまして、市民の皆様御意見を積極的に取り入れるため、関係機関や団体の役職員、公募市民を含む学識経験者から構成される審議会等の附属機関に意見を求める諮問を行い、十分な審議を経て、その結果を答申として受けるほか、意見公募手続、市民アンケートの実施や、大学生を初めとした若い方々から御意見をいただく機会を設けるなど、多様な市民参加の取り組みを実施いたしております。

また、地域の課題等について考え、提言する機会となる市民懇談会の開催、市政モニターに子育て世代

の方を委嘱し、市政全般にわたりさまざまな御意見をいただくなど、幅広い世代、分野の方々からの御意見、御要望を反映できるように努めているところでもございます。

市民参画に対する考え方につきましては、私は、市民一人一人がまちづくりの主体であり、主役であるという意識を高めていくことが大変重要であると考えておりまして、政策形成過程において、市民の参加・参画機会の拡充を図っているところでございます。今後とも、行政の取組状況をしっかりと市民の皆様方に説明をし、理解を深めていただくとともに、市民が主体的に市政やまちづくりへ参画しやすい環境づくりにも努めていきたいと考えています。

次に、市民参加度チェックマニュアル及び参加候補者の無作為抽出の導入についての御質問についてお答えをいたします。

行政が施策を展開していく上では、時代の潮流や課題に対応していることはもちろん、市民ニーズを的確に捉え、適切に対応していること、費用対効果を勘案していくことも大変重要であると認識をいたしております。そのため、計画策定に限らず、市政全般にわたり、多様な市民参加手法を用いて、市民と行政との協働による行政運営を推進しているところでもございます。

しかしながら、市の事業は幅広い分野にわたっておりまして、国の制度等により、市に裁量の余地がないものなど、性格や内容によっては、市民参加・参画の機会を設けることが難しい事業もございます。

チェックマニュアルの導入につきましては、多岐にわたる市の事業において、適切に市民参加・参画を推進していく手段として有効であるというふうに考えておりまして、他市事例などを踏まえながら検討していきたいと考えています。

無作為抽出による参加候補者の選出手法につきましては、みと魁プランの策定に当たり開催した水戸未来市民討議会において、初めての試みとして導入をいたしました。市民の中から無作為に抽出した満20歳以上、2,000人の方に御案内を送付して、2日間で延べ46人の方に御参加をいただいたところでございます。これまで市政に声を届ける機会の少なかった方を含む幅広い年代の方から、さまざまな御意見をいただくことができ、有意義な取り組みであったと考えておりまして、今後とも、市民参加手法の一つとして、引き続き取り入れていきたいというふうに考えております。

私は、引き続き、さまざまな市民参加手法を積極的に取り入れて、市民と行政との協働によるまちづくりを推進し、笑顔あふれる安心快適空間、未来に躍動する魁のまち・水戸の実現に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（村田進洋君） 6番，渡辺莉奈君。

〔6番 渡辺莉奈君登壇〕

○6番（渡辺莉奈君） 御回答ありがとうございます。

これは要望ですので答弁は求めませんが、先ほど御答弁いただいた政策形成において多様な手法を取り入れるということは、事業を達成するための第一歩だと思います。市民からの協力を得るには、市民の感情を把握することが大切です。事業は計画どおりに進まないこともありますが、それでも、最初の段階で市民の意見をよく聞いておくことで、問題が発生した際に、市民の要望にあった説明や情報発信ができます。その

ため、ぜひとも市民の感情を酌み取り、さらに、市民が水戸市に対して意見を伝えることができよかつたと思える機会をふやしていただきたいです。

この点を要望しまして、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（村田進洋君） 以上で、質問は全て終了いたしました。

---

閉 会

○議長（村田進洋君） よつて、水戸市女性議会2016を閉会いたします。

午前11時53分 閉会